

COVID-19 5類移行後の対応 ヒロシマ平松病院の場合

ヒロシマ平松病院 院長 高澤 篤之

COVID-19 の流行後、ヒロシマ平松病院は 2022 年 4 月より協力医療機関として COVID-19 診療を行ってきた。5 類移行後に発熱患者の対応が急増することを危惧したが、本来自院の診療の柱となる整形外科 2 次救急へ対応するため効果的かつ今までよりも負担の少ない発熱対応を行うことを決めた。最低限の隔離対策と、必要時の抗ウイルス薬の使用で対応可能だった。COVID-19 外来対応医療機関数は 2023 年 11 月の時点で目標値を下回っているが、当院のように特別な設備のない医療機関でも十分に対応可能であり今後に対応医療機関が増加することを期待する。過度な恐れは不要であり、必要時の対策は確実に行うことで COVID-19 診療と従来の業務を並行して行うことが可能となる。